

岡山空襲

齋藤典子さん

こちらの作文は、齋藤さんの御家族が小学4年生の時に経験した岡山空襲について、小学5年生の時に作文したものです。

昭和20年6月29日午前2時40分。B29, 70機を持って岡山市を爆撃しました。ぼくが寝ていると、お母さんが「まあちゃん、まあちゃん」といわれたので、目がさめました。「おちついて服を着なさい、空しゅうですよ。」とお母さんがおっしゃいました。ぼくはかやから出て、服を着て、防空の用意をしました。すると、ざざざざざーどどどどどどんと、すさまじい音がして電気が消えました。お母さんは黒い紙のまくを二重におはりになり、ローソクに火をおつけになり、まどガラスを全部お開けになりました。ぼくはリュックサックをおいしました。お母さんもおわれました。ぼくはくつをはき、お母さんと2人で外へ出ました。7, 8人川のへりにいました。ぼくらは橋を渡って行

【岡山空襲】

昭和20年6月29日、岡山市街地はアメリカ軍による大規模な空襲を受けました。

ティニアン島を飛び立ったB29の最初の1機が岡山市上空にあらわれたのが午前2時43分。それから午前4時7分までの1時間24分にわたって、138機のB29により約883トンの焼夷弾が投下されました。

この空襲で当時の市街地の約63%が焦土と化し、少なくとも1,737人以上の犠牲者が出ました。

犠牲者については2,000人を超えるという説もあります。

きました。橋には焼夷弾しょういだんのひらけたのがもえていました。お母さんが「おそれずふみこえて行きなさい。」とおっしゃいました。初めはこわかったが、お母さんと2人で火の中をむちゅうで走りました。ほうらい橋のこちらにトラックが止めてありました。ほうらい橋を過ぎて一女のへん(1)を通った時、ほうらい橋しょういだんへ焼夷弾が落ちました。僕らの近くにも落ちました。ふとんをかぶりながらぼくはけい馬場の方へ行きました。途中ぼくらに「私もつれにして下さい。」と、よそのおばさんがおっしゃったのでつれにしてあげ

ました。そのおばさんはふるえておられました。それから百間河原の土手へあがって見ると、お城の近くがもえていました。おかあさんが「岡山城もこれが見おさめになるかも知れないから、よくよく見ておきなさい。」とおっしゃいましたので、土手でしばらく休み、岡山市の方をながめました。ふと気がついたら僕らの学校ももえ上っています。あのなつかしい金わが3つ、はっきりと火の中に浮び上って見えます。「お母さん、⁽²⁾西が焼けています。」と思わず泣き声になりました。お母さんは「まだはっきりとはわからないのだから。」と元気づけて下さったが、ぼくはひとりで涙が流れました。百間河原に来るまでに、^{しょういだん}焼夷弾が目の前やちょっとうしろに5、6回落ちて来ました。その度に夏のふとんをお母さんといっしょにかぶって、たんぼの中や道ばたにふせました。ぼくも夏ぶとんを防弾帽の上からかぶっていましたが、一女の前で気がついて見たら、防弾帽2枚だけかぶって、夏ぶとんはいつのまにか落ちていました。橋の上で大勢おしあった時に落ちたのでしょう。百間河原の土手からたんぼを通りました。この時、雨が

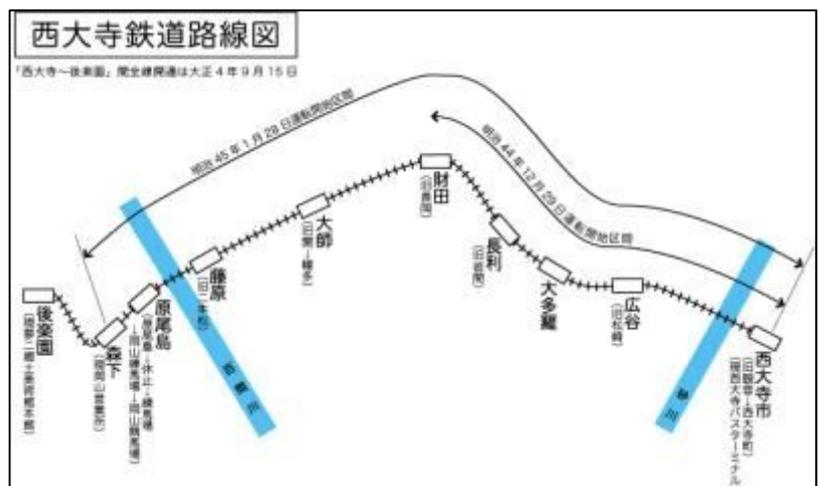
降って来ました。たんぼの細道

を通って行くと、5、6人たんぼのよこへかがんでいました。

たんぼをぬけて、⁽³⁾藤原駅の方からせんろをつたって行きました。⁽³⁾大しの駅まで来ると8、9人いて「ここへこられ、ここへこら

れ。」といったので行きました。雨がだいぶやんだので、また東へ東へと行きました。

⁽³⁾財田の駅から雨がやみました。ぼくらは、⁽⁴⁾たわをこしてしゅくおくのおばさんの家へ行って、ごはんをよばれて、お母さんはまた岡山へかえり、ぼくは⁽⁵⁾笹岡まで⁽⁶⁾しゅくおくのおばさんがつれて行って下さいました。笹岡のおじいさんもお父さんも大変しんぱいして、ぼくたちの来るのを今か今かと待っておられました。晩にはお母さんも来られました。また近所へ岡山からたくさん来られました。笹岡の人は、ふとんの荷物を作ったり、



おにぎりをたくさんこしらえて、岡山まで持って行かれました。

- 1 一女...岡山県第一岡山高等女学校（現岡山県立操山高等学校）。
- 2 弘西...岡山市立弘西国民学校（現在廃校）。
- 3 藤原,たい師,財田...旧西大寺鉄道の駅名
- 4 たわ...峠。山の尾根の低くくぼんだ所。
- 5 笹岡...現在の「岡山県岡山市東区瀬戸町笹岡」。
- 6 しゅくおく...現在の「岡山県岡山市東区瀬戸町宿奥」。

【現在の岡山市街地】



【岡山市の罹災状況(当時)】

